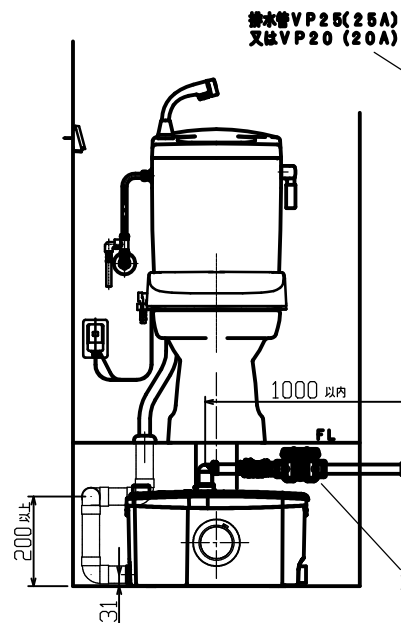


| | |
|-------|----------------------|
| 便器 | どこでも2L便器 FS502-HEA24 |
| 圧送ポンプ | どこでも圧送ポンプ DAP-B |

| | |
|----------|-----------------------------|
| 圧送ポンプの仕様 | |
| 電源 | AC100V(50Hz:860W、60Hz:980W) |
| 電源コード長 | 1.5m |
| 出力 | 最高揚程:7m、最大処理量:110L/分 |
| 重量 | 10kg |
| 受入最高温度 | 35℃ |

使用上の注意

- 1 トイレントベーパー以外は絶対に流さないでください。
便器洗浄用シート、ティッシュペーパー、固い紙(新聞紙、雑誌)等は水に溶けにくく排水管が詰まる原因となりますので、使用しないでください。また、生理用品等も便器に捨ててください。
- 2 排水温度は35℃以下で使用してください。
ポンプ作動不良、ケースの変形、ゴム部品の劣化による故障の原因となります。
35℃以上の排水を流したり、20分以上連続運転すると、ポンプのモーターが停止します。
その際はコンセントを抜き、30～40分放置後、再度コンセントを入れることで復旧します。
復旧後は、内部に溜っている汚水を自動排出されます。
停止状態では内部が満水状態となっています。排水を行うと通気口や蓋から漏水の恐れがあります。
- 3 掃除には中性洗剤以外使用しないでください。
酸性、アルカリ性の洗剤、漂白剤、塩酸、クレンザー、ベンジン、シンナー類、うじ殺し、殺虫剤、その他薬品は、部品が変形や変質して故障の原因となりますので、絶対に使用しないでください。
- 4 砂や小砂利等は流さないでください。
洗浄剤のキャップや組立式玩具の部品等を流さないでください。
輪ゴムを絶対に流さないでください。油類は流さないでください。
- 5 故障の70%以上が異物混入が原因です。異物混入には充分注意してください。
- 6 停電時、どこでも圧送ポンプが作動しません。
停電の間、用便後は水を流さず通電してから流してください。
- 7 どこでも2L便器は、洗浄水を流したとき、便器オーバーフローから少し水が流れることがありますが、故障ではありません。

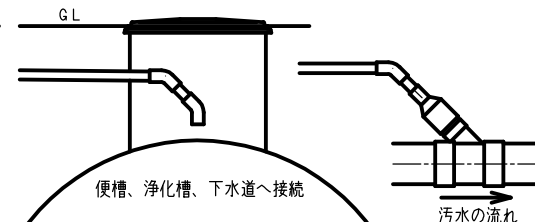
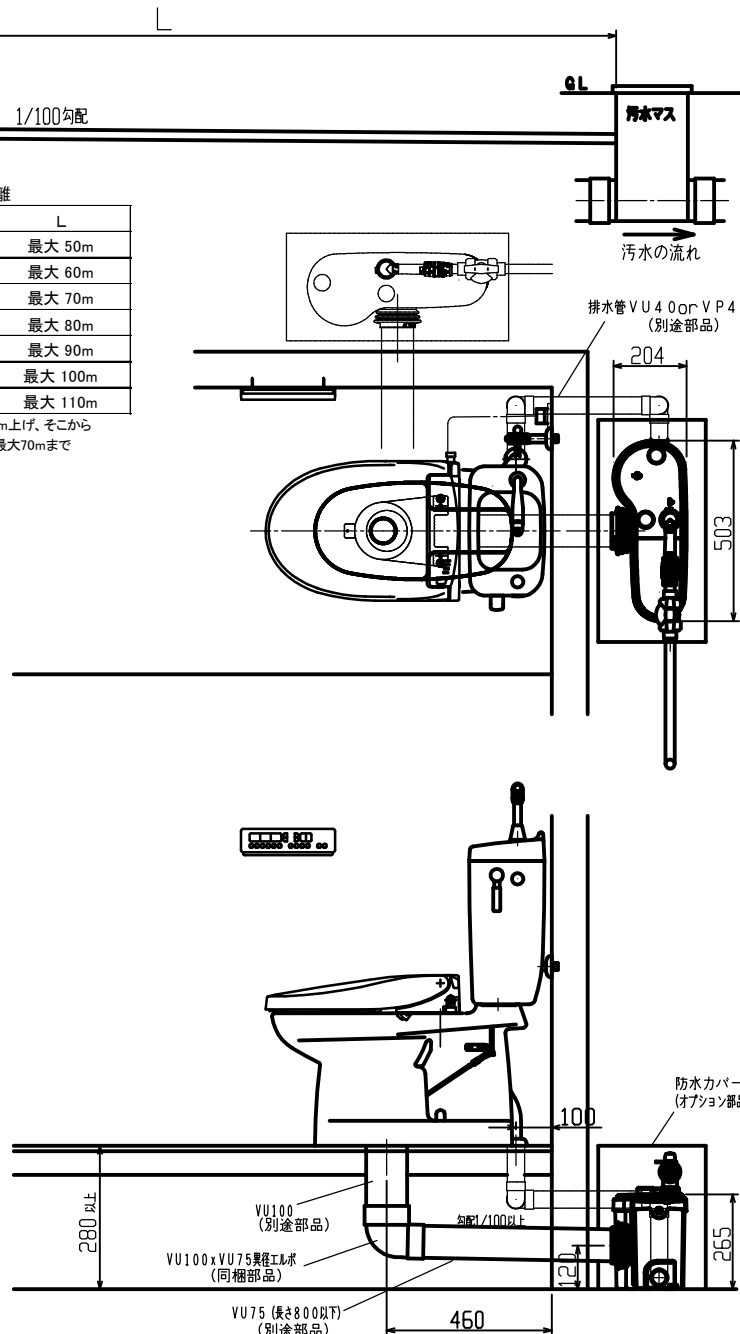


排水バルブ25 (別添部品)
VP20の場合は、排水ソケット25X20
5分2分(以下)のとき、止めて作業を
するために必ず取り付けてください。

上方、水平圧送距離

| H | L |
|------|---------|
| 7mの時 | 最大 50m |
| 6mの時 | 最大 60m |
| 5mの時 | 最大 70m |
| 4mの時 | 最大 80m |
| 3mの時 | 最大 90m |
| 2mの時 | 最大 100m |
| 1mの時 | 最大 110m |

(例) 圧送ポンプから5m上げ、そこから横引きする場合最大70mまで



施工上の注意

- 1 接続できる排水は、トイレ、洗面化粧台や手洗器の排水です。
台所排水を流すと、油分が多いため故障の原因となります。
浴室排水を流すと、大量の排水でどこでも圧送ポンプが連続運転となり温度が上昇しポンプが停止するため流さないでください。
- 2 どこでも圧送ポンプから排水先の便槽・合併槽・下水道までの排水配管
 - ① 排水配管の口径: VP25(25A) VP20(20A)も使用可能
内径がφ20～25の内径がなめらかなホースでも使用可。
内径がφ20以下のVP13などを使用すると詰り、内径がφ25以上のVP30、VP40・・・を使用すると圧送する圧力が低下して詰るため、絶対に使用しないでください。
 - ② 排水配管の距離は、「上方、水平搬送距離」の範囲で行ってください。
 - ③ 排水配管VP25(VP20)の曲りに
90度エルボ使用不可
45度エルボを2個使用して曲げてください。
 - ④ 排水配管の曲り1箇所につき、0.5m圧送距離が短くなります。
 - ⑤ 排水配管は、土中埋設・露出配管できます。
露出配管の時、凍結防止として保温材を巻くなど対策を行ってください。
 - ⑥ 10m以上の排水配管は、10m間隔で掃除口を設けてください。
掃除口は、下記の2通りから選んでください。
・TSチーズ継手にツマミ式VP管用掃除口を付ける。
・TS給水チーズ継手にステンレスのメクラプラグをシールテープを巻いてねじ込む。
- 3 簡易水洗便器は、接続できません。必ず、洗浄水量20以上の便器にしてください。
- 4 圧送ポンプ1台と便器1台の組み合わせで施工してください。
便器2台以上は、配管の詰りの原因となります。
- 5 どこでも圧送ポンプを屋外に設置する場合
 - ① 直射日光に当たらないようにしてください。
 - ② 雨に濡れたり、凍結の恐れがある場合は、カバーで囲ってください。
カバーはメンテナンスで取り外しができるようにしてください。
 - ③ ポンプの運転音が近所に迷惑になるときは、カバーで防音してください。
- 6 どこでも圧送ポンプは、メンテナンスできるように設置してください。
誤って流してはいけない物を流したりして詰った場合、どこでも圧送ポンプをメンテナンスする必要があります。
どこでも圧送ポンプは、取り出せるように設置してください。
排水配管の圧送ポンプから出たところに止水できるボールバルブを付けてください。
- 7 雑排水流入口からの配管40Aと手洗器やオーバーフロー配管などを接続するとき、接続部高さを200mm以上にしてください。
200mm以下になると、排水が悪くなり、詰りの原因になります。
どこでも2L便器を設置して便槽に溜める場合、オーバーフローや手洗の排水を圧送ポンプに接続して便槽に入ると、器具が故障して水が止まらなくなったり、便槽が直ぐ一杯になります。
そのときは、圧送ポンプに接続せず、一般的な簡易水洗便器と同じようにオーバーフローや手洗の排水は屋外の側溝などの流してください。
- 8 どこでも2L便器は、洗浄水を流したとき、便器オーバーフローから少し水が流れることがありますが、故障ではありません。

